

特別報告

22WSJに参加して



ボーイ隊 副長 野村勝美

第22回世界スカウトジャンボリー（22WSJ）が7月27日（水）～8月7日（日）までスウェーデンにて開催されました。世界中のスカウト約4万人が一堂に集まり“シンプル・スカウティング”のテーマのもと、スカウトらしいキャンプ生活を行いました。日本からも約1,000人のスカウトと指導者が派遣されました。私は15隊の副長として尾張ブロックおよび名古屋のスカウト共に参加しました。

7月27日ジャンボリー会場への入場と設営は好天に恵まれました。テントを立てゲートを作り、とすべて順調でした。ゲートは日本からわざわざ持って行った赤いペンキを使って神社の鳥居のように作りました。スカウトの計画に任せていたのですが、出国時にペンキを持っていくと聞き何を考えているんだと思いましたが、出来上がりを見てあっぱれでした。この赤色は結構目立ち、立ち止まって記念写真を撮っていく外国スカウト続出でした。

残念ながら28日は朝から雨。夜には開会式があるというのに…。一気にテンションが下がりました。この雨は3日間降り続けました。30日の夕方に雨が上がり、日が差ししてきたときにはサブキャンプ中から歓声が沸きおこりました。

スカウトの毎日は、朝起きたら朝食とお昼のお弁当作り。朝食が終わったらお



22WSJはスウェーデンのクリスタンスタッド近郊で行われました。



好評だった鳥居型ゲート



ドイツ隊との交流会

弁当を持ってプログラムへ出発。夕方に戻ってきたらマーケットへ行って食材の買い出しと、夕食作り。夕食後は班会議と班長会議。この合間をぬって洗濯やシャワーもします。それから外国スカウトとの交流会もしました。結構忙しいです。

日本ジャンボリー(NJ)では食事作りの手間を省くためにレトルト食品が多かったようですが、WSJではそうはいかず班ごとに全てスカウトが手作りました。原隊でやってきた成果の見せ所でもあります。また、前回イギリスでのWSJでは配給制だったそうですが無駄が多かったと言うことで、今回のテーマ“シンプル・スカウティング”にそって無駄を無くすためにマーケット方式でした。この方式だと余った食材を廃棄することはありませんが、どうしても使いやすい食材ばかり買って来て、自分たちが作ったことのあるものを作ってしまいがちで、配布されたクッキングブックを参考にして外国料理にチャレンジすることはあまりなかったようです。その点が、少し残念に思いました。

外国スカウトとの交流のひとつに記念品交換がありました。日本のワッペンやハッピーそしてポケモンのチーフリングはとても人気がありました。チーフリング1個が数枚のワッペンと交換できたり、ハッピーがともしっかりしたコートに変わったりと誰がどんないいものに交換してくるのが楽しみでした。

31日以降は晴天が続き最高気温が25℃ないぐらいで、



スウェーデン指導者アンニャと一緒に

朝晩は上着がないと肌寒いですが、湿度が低いのでとても過ごしやすい気候でした。ちなみに、日の出は4時、日の入りは22時でした。

8月4日は《カルチュラルデー》でした。それぞれ自国の文化を紹介します。我が15隊は、お好み焼きとたこ焼きを作り、書道や折り紙を紹介し、AKB48の踊り(これが日本文化?年寄りからすると疑問)を披露しました。お好み焼きやたこ焼きにのっているかつお節は外国人には木くずにししか見えなかったようです。『This is dry tuna.』と言って実際に食べて見せてようやく納得して食べてもらえました。食文化の違いを痛感しました。

6日夜は閉会式なのでプログラムは前日までに全て終了し、朝から撤営準備に入りました。ゲート等の工作物を解体したり、翌日が雨の予報だったのでテントを半分の数に減らしたりしました。『ああ、もうこれで終わりなんだ。』長かったような短かったような複雑な気持ちでした。

夕方、閉会式に出席するため私がDパックを背負っていたらあるスカウトが『何か持って行くんですか?』と聞いてきた。『一応カッパをね。』と答えたら、快晴の空を見上げながら『降らないっすよ。』と言ったので『“そなえよつねに”かな。』そんな会話をするほどのいい天気だったのに、閉会式開始から30分もたたないうち

に土砂降りの雨が降り出しました。ほとんどのスカウトが雨具を持たずに行っていたのでびしょ濡れになりました。“そなえよつねに”を思い知らされた一場面でした。雨に始まり雨で終わったWSJでした。

とても印象的だったのは、開会式と閉会式で大会ソングを参加者全員で合唱したことです。約4万人の心がひとつになっていました。この気持ちは実際にその場に行かないと味わえない事です。

これまで、WSJは雲の上の話だとばかり思っていたが、今回参加してみてスカウト活動をしていれば誰にでも参加できるものなのだと気づきました。4年後の23WSJは日本・山口県にて開催されます。そのときには一人でも多くの瀬戸6スカウトに是非とも参加してほしいものです。参加対象は1998年夏から2001年夏生まれです。現在のカブ〜ボーイ年代のスカウトが該当します。これより上のスカウトにはIST(国際サービスチーム員)や指導者として参加可能です。ISTは縁の下の力持ちです。今大会も多くのISTの支えによって成り立っていました。やりがいのある役務だと思います。

また、2001年夏以降生まれのスカウトは8年後のアメリカで開催される24WSJを目指して下さい。スカウトとして参加できるのは一生に一度しかありません。外国のスカウトと交流し見聞を広めひと回りもふた回りも大きく成長できるチャンスです。こんな夢を持って今後のスカウト活動を続けてみて下さい。ただし、参加するためにはスカウト技能だけでなく体力・精神力・英語力を身に付けておいて下さいね。

今回初めて混成隊の指導者をさせて頂きました。これまで瀬戸6しか知らなかったので、他団の指導者およびスカウトと接し、色々勉強させて頂きました。この経験を今後の活動に生かしていきたいと思っています。



キャンプファイヤー



スウェーデン隊との交流会